



## オーストラリアの投資環境(豪ドル為替編) ～ウエスタン・アセットによる見通し～



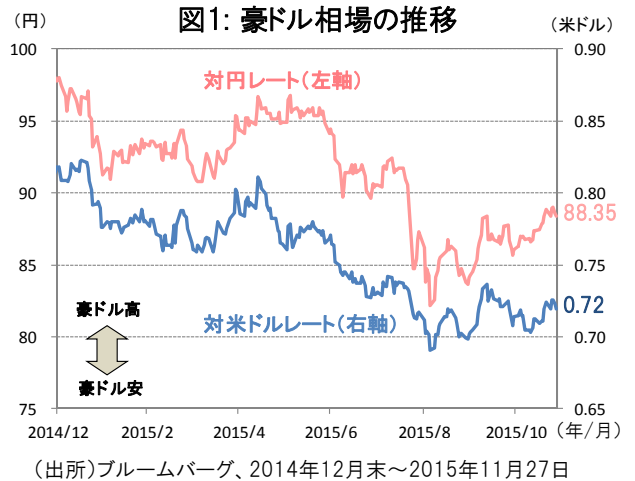
オーストラリア拠点運用責任者  
アンソニー・カーカム氏

2015年11月、レッジ・メイソン・グループの運用子会社であるウエスタン・アセットのオーストラリア拠点で債券運用チームを率いるアンソニー・カーカム氏が来日しました。そこで、オーストラリア債券の投資環境についてインタビューを行いましたのでご紹介します。  
今回のテーマは「オーストラリアの投資環境 (豪ドル為替編)」です。

### 年初来の豪ドル為替相場の動向

2015年の豪ドルの対米ドル相場は、原油や鉄鉱石等の商品価格の下落の影響を受け、「オーストラリア＝資源国」のイメージから、他の資源国通貨が下落したのと同様に豪ドル安となりました。米国の利上げ観測も豪ドルを含めた世界の通貨に対する米ドル高の要因となり、一時は1豪ドル＝0.69米ドル台と年初来15%以上の下落となりました(図1)。

しかし、豪州では資源から非資源への経済転換が進んでおり、低金利や通貨安による恩恵が、個人消費や住宅、観光などの内需産業に広がっています。堅調な雇用環境や小売売上高の推移などから豪州経済の底堅さが確認されるに連れて(図2)、豪ドルの見直し買いも進み、足元では1豪ドル＝0.72米ドル前後で安定した推移が続いています。



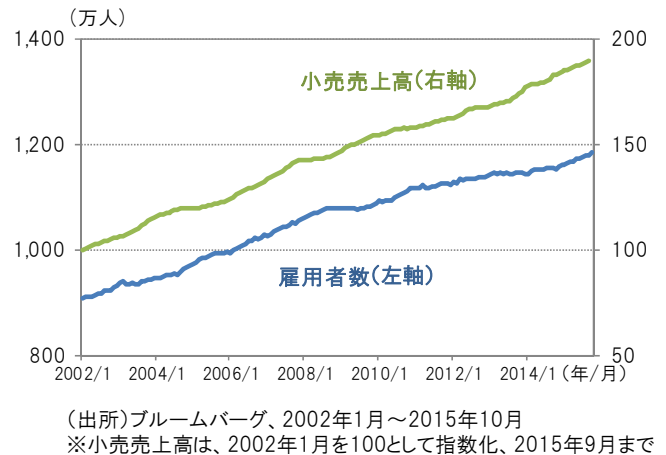
### 豪ドルの対米ドル相場の見通し

9月には、実業家としての経験が豊富なターンブル氏が新首相に就任しました。経済改革を推進するとして新首相への交代は、経済界・消費者から歓迎されており、市場心理の回復にもつながっています。

米国の利上げについては、市場では年内の利上げをほぼ織り込んでおり、今後の利上げのペースについても慎重でゆるやかであることが予想されています。

ウエスタン・アセットでは、上記に加えて、豪州経済が回復傾向にあることから2016年の豪州の政策金利の据え置きを予想しており、今後の豪ドルの対米ドル相場は、底堅く推移すると予測しています。

### 図2: 豪州の小売売上高と雇用者数の推移



### 豪ドルの対円相場の見通し

豪州の実質GDP成長率は、2015年は2.4%、2016年には2.9%と予想されており、日本との相対的な経済成長率の差は、引き続き対円での豪ドル相場を支える要因と考えられます(表1)。

2016年以降もゼロ金利政策および量的緩和の継続が見込まれる日本との金利差も考慮すると、豪ドルの対円相場は、対米ドルと比較してより一層底堅く推移することが期待されます。

足元では、対円の豪ドル相場は1豪ドル＝88円前後で安定した推移が続いており、ウエスタン・アセットでは、今後は1豪ドル＝90円台の回復を目指した展開となる可能性も視野に入れています。

### 表1: 日豪の実質GDP成長率および利回りの比較

	実質GDP成長率予測 (IMF)			10年国債 利回り
	2015年	2016年	2017年	
豪州	2.4%	2.9%	3.1%	2.84%
日本	0.6%	1.0%	0.5%	0.31%

(出所)ファクトセット、ブルームバーグ、2015年11月27日時点  
※実質GDP成長率は、2015年10月のIMF発表値(小数点第2位以下を四捨五入)

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、レッジ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。